

12. 豊かで安心な魚を育む漁場環境監視事業

(4) 藻場監視基礎調査

担 当：野々村卓美（増殖技術室）

実施期間：平成26年度（平成26年度予算額：5,992千円，うち赤潮監視事業：国庫702千円）

目的・意義・目標設定：

県内の藻場の分布や磯焼け状況を監視する。

事業展開フロー

(1) 沿岸漁場環境調査を参照。

1) 目的

本県では，平成11年に県内を広く網羅した海藻分布調査を実施した。平成24年以降は，平成11年調査において，特に海藻の被度が高かった17地点を代表地点として選定し，

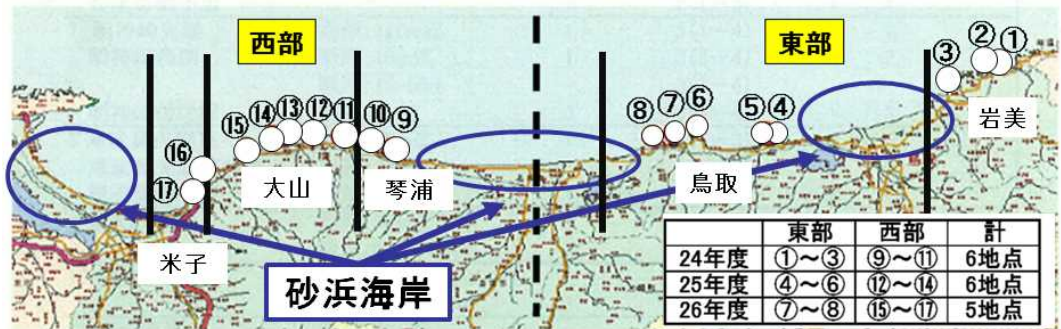


図 1. 鳥取県沿岸域の藻場監視調査地点（17地点）。3ヵ年で17地点を網羅する。

3ヵ年計画で県内の藻場の分布状況として把握している。本調査では，過去の知見と比較を行い，実態を把握するとともに，磯焼けが起きていないか等を検討する。

2) 方法

平成26年度調査は，東部⑦（鳥取市青谷・明神崎），⑧（湯梨浜町泊・尾後鼻），西部⑯（米子市・国信），⑰（米子市・平田）の4地点で実施した（図1）。調査は，ホンダワラ類などが繁茂しており，ワカメが枯れる前の5～6月に実施した。

各調査地点では，5mごとに目印のついた調査ラインを岸から沖方向に設置し，スキューバ潜水あるいはシュノーケリングにより，1.5m×1.5m区画の景観被度や主要な海藻・草の組成を記録した。景観被度では，被度階級に基づき，0%を0、1～24%を1、25～49%を2、50～74%を3、75～100%を4として配点して評価した（表1）。

平成26年度は，平成24年度に藻場監視基礎調査が開始されてから3年目にあたり，17地点が完了する年度であるため，平成24～25年度の調査結果を参照して，平成11年度の結果と比較を行った。なお，⑮（大山町・御来屋）のみ，平成23年度の調査結果を参照した。

表 1. 藻場監視調査の景観被度階級。

被度階級	区分	区分の基準	被度	写真で見る被度の状況	被度階級	区分	区分の基準	被度	写真で見る被度の状況
0	なし	植生はない	0%		3	密生	海底面より植生の方が多い	50-74%	
1	点生	植生はまばら	1-24%		4	濃生	海底面がほとんど見えない	75-100%	
2	疎生	植生より海底面の方が多	25-49%						

3) 結果

平成11年と平成24～26年の被度の比較を行った結果，合計17地点中，6地点で増加，7地点で減少，

4地点で変化がなかった。また、ウニ類が著しく増加し、無節サンゴ藻に覆われるというような、磯焼けは確認されなかった(図2)。

観察や漁業者からの聞き取りにより考えられる被度減少原因は、地点②浦富・牧谷東では漂砂等、地点⑨赤碕・菊港東と地点⑩赤碕・西港西ではウニ類による食害等であり、地点④酒津・烏帽子岩、地点⑤酒津・西天然礁、地点⑭下木料、地点⑮御来屋では原因が不明であった。

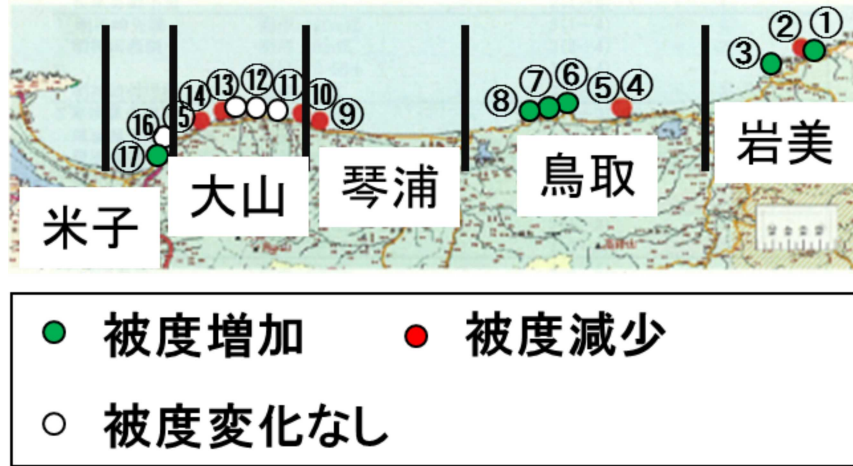


図 2. 鳥取県沿岸域の藻場の現状。平成11年と平成24～26年の結果の比較。緑丸：被度増加，白丸：被度変化なし，赤丸：被度減少。⑮のみ平成23年の結果。

表 2. 鳥取県沿岸域における平成11年と平成24～26年の被度階級の比較，主な海藻大型海藻，考えられる減少原因。地点番号の色は，緑：被度増加，白：被度変化なし，赤：被度減少の地点を示す。⑮のみ平成23年の結果。

地区	市町村	番号	地名	H11年被度	H24-26年被度	主な大型海藻	主な減少要因
東部	岩美町	①	浦富 猿飛岩	3	4	ワカメ、ガラモ場	
		②	浦富 牧谷東	4	1	ワカメ、ガラモ場	漂砂等
		③	網代	1	3	アラメ、クロメ、ワカメ、ヤナギモク	
	鳥取市	④	酒津 烏帽子岩	4	3	アラメ、クロメ、ガラモ場	不明
		⑤	酒津 西天然礁	3	2	アラメ、クロメ、ワカメ、ガラモ場	不明
		⑥	夏泊	1	4	ワカメ、ガラモ場	
		⑦	青谷 明神崎	1	2~4	アラメ、ワカメ、ガラモ場	
		⑧	泊 尾後鼻	1	3~4	ワカメ、アカモク、ノコギリモク	
西部	琴浦町	⑨	赤碕 菊港東	3	1~2	ワカメ、ガラモ場	食害等
		⑩	赤碕 西港西	3	2	ワカメ場	食害等
	大山町	⑪	御崎	3	3	アラメ、ワカメ、ガラモ場	
		⑫	塩津	2~4	3	アラメ、ワカメ、ガラモ場	
		⑬	下木料東	3	3	ガラモ場	
		⑭	下木料西	4	3	ガラモ場	不明
		⑮	御来屋	4	3※	ワカメ、ガラモ場	不明
	米子市	⑯	国信	3	2~4	ワカメ場	
		⑰	平田	1	3	ワカメ場	

4) 考察(成果)

藻場が衰退しているといった声が漁業者からも聞かれるようになる中で、一部の地点では、海藻の被度が増えていることが確認された。被度が増えている場所の地形的な特徴についてみると、地点①浦富・猿飛岩、地点⑥夏泊、地点⑦青谷・明神崎、地点⑧泊・尾後鼻などのように、岬のような潮通しの良い場所で確認され、夏場の水温が低く抑えられたり、これまで漁業者が造成してきたアラメが繁殖したためと考えられた。また、今後、漁業者が行う藻場造成の場所の選定の手がかりになると考えられた。

5) 残された問題点及び課題

全国的に藻場が衰退しているため、引き続き、本県の藻場の分布状況を注視していく必要がある。